

海老名災害ボランティアネットワークだより



2022年（令和4年）7月1日発行 第39号

発行 海老名災害ボランティアネットワーク（略称：海老名災ボラ）
 事務局 海老名市めぐみ町6-3、福社会館・海老名市社会福祉協議会気付
 ホームページアドレス <http://www.ebina-saibora.net/>

梅雨の終わり頃の集中豪雨や秋の台風で、日本では毎年、河川氾濫や土砂災害が発生しています。2018年以降でも、自然災害が多発しており、経験を踏まえた防災対策の充実が重要になっています。

- 2018年7月、「西日本豪雨災害」：河川氾濫や崖崩れが発生、岡山県・広島県で大きな被害発生。
- 2019年9月、「台風15号」：千葉県では強風で屋根が飛ばされ、停電など大きな被害が発生。
- 2019年10月、「台風19号」：静岡県、神奈川県、関東、東北南部を通過し、太平洋に抜けました。河川の氾濫、土砂崩れ、暴風雨、停電など、大きな被害が発生しました。
- 2020年7月「令和2年7月豪雨」：九州から東北まで、九州では熊本県球磨川の氾濫で大きな被害。
- 2021年7月～8月、集中豪雨、九州～中四国地方、近隣では静岡県熱海市の土石流被害（死者26名）

2019年10月12日、台風19号で相模川の水位が上昇、約3千人の海老名市民が避難した！

台風19号では、神奈川県箱根町で過去最大級の大雨を記録。海老名市では、12日午前中に「レベル3：避難準備・高齢者等避難開始」の指示が出され、コミセンに避難所が設置されました。午後には、城山ダムの緊急放水で相模川水位の上昇が予想されたため、市内西側の相模川浸水予想地域に対し「レベル4緊急指示（緊急）」が出され、市内の小学校に避難所が開設され、約3千人の市民が避難しました。

大型店舗や事業所の駐車場を災害時に地域住民への開放する取り組みが、自治会と市役所、事業者との間で進められてきました。今後は、住民自身の災害対策（自助）も重要な課題となっています。

台風・豪雨災害に備えて、家族ごとに「避難行動計画」を作ろう！

台風や豪雨災害に備えて、自分や家族が取るべき防災行動計画を「マイタイムライン」と言います。家族単位で防災行動計画（避難行動計画）を作りましょう（その概略は次を参照してください）。

- ①日頃から、自分の住んでいる地域の災害状況（洪水などに関する危険）を知り・備える！
 - ・海老名市発行の防災マップ（ハザードマップ）の確認：自分の住んでいる地域の「洪水の深さ」など
 - ・自分と家族の状況を考え、「在宅避難」か、避難所など「別な場所へ避難」するかを想定しておく。

移動する場合には、移動の手段・経路などを想定する。非常持ち出し品などを確認する。
- ②台風や大雨に関する予報・注意報・警戒情報などに注意し、早めの避難を実行する！
 - ・テレビ、ラジオ、スマホなどから気象情報・注意報・警戒に関する情報に注目する。
 - ・避難所開設の確認、自分たちが避難する場合には知人や近所の人に伝えておく。
- ③避難が既に「危険な状況になっている」と判断した場合、「命を守る最善の行動」を選択する！
 - ・氾濫発生情報などが出され、極めて危険な状況にあると判断した場合、より高い場所へ移動するなど「命を守るために最善の行動」を選択してください。

台風や豪雨災害に備える防災講座・防災訓練を地域・各種団体で開催しましょう！

梅雨から秋にかけて台風や集中豪雨での災害が、全国各地で毎年のように起こっています。また、各地で小規模な地震が起こっており、首都直下型地震や南海トラフ地震のような大規模な地震の発生が何時発生するかもしれない危険性もあります。

それぞれの地域の特性を考慮して、風水害対策や地震災害対策を、家庭や地域で協力して実施することが必要です。自治会や各種団体が防災講座や防災訓練を実施する場合、海老名災ボラは積極的に協力するつもりです。防災講座や防災訓練に関する企画・計画などがありましたら、相談に応じますので、海老名災ボラに連絡をよろしくお願いします。

2021年12月には、上今泉自治会連合会の防災フェアに参加・協力しました。2022年度では、海老名市ボランティア連絡協議会から防災講座への参加・協力の依頼があり、また、門沢橋コミセンからの防災講座の企画に関する相談を受けています。

市が大規模災害の被災地なった場合、災害ボランティアセンターが設置される

海老名市が大規模な災害の被災地となった場合、公共施設などは国や県・市町村が復旧復興を実施します。被災した民間の復旧は、原則としては民間で行うことになっています（「自助」・「共助」）。

被災した市民の家の復旧などは、海老名市災害ボランティアセンターに連絡し、ボランティア派遣を要請することができます。また、ボランティアとして海老名の被災者支援活動に参加する方は海老名市災害ボランティアセンターへの申込をお願いします。

海老名災ボラ・2022年度定期総会を開催、自治会や各種団体の防災講座等に協力する

海老名災ボラは2001年に結成され、2022年5月21日に第21回定期総会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年度と2021年度の定期総会は顔を合わせない方式（書面議決方式）で開催しましたが、2022年度は従来のような「顔を合わせる方式」で開催することができました。

総会では、自治会などでの防災に取り組みの現状に関して様々な意見が出されました。災ボラとしても、自治会や各種団体に協力して、防災講座や防災訓練などの取り組みを進めることを確認しました。

海老名災ボラ役員：代表・石橋友晴、副代表：星野隆一郎、三宅良子、

会計：松井俊輔、小澤昌平、会計監査：永山八郎、嶋原やわた

海老名災害ボランティアネットワーク 会員募集中！

海老名災ボラでは、次の3本の柱を軸に、様々な活動を行っています。

- ①市民の災害対応力（「自助」・「共助」）を高める活動
- ②海老名が被災地となった時に「災害救援ボランティア・コーディネーター」としての活動
- ③大規模災害が発生した場合に、被災地被災者支援のボランティア活動への参加

《会費》個人会員：年額2千円、賛助会員：年額1千円、団体会員（自治会など）：3千円

《問い合わせ》海老名災ボラ代表（石橋友晴）まで

メールアドレス：ti.226.gejimon@gmail.com、スマートフォン：090-6795-3244

申込書：海老名災ボラ・ホームページの中からコピー。提出先：海老名災ボラ代表へ